賢く　優しく　逞しく

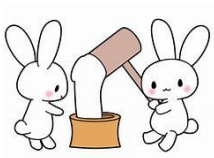
１月号・令和５年１月１０日発行

本校ＵＲＬ　http://musashimurayama.ed.jp/mmced5c/　武蔵村山市立第五中学校

壁を乗り越えろ！

校　長　榎戸　千代子

令和５年が明けました。仕事始めの朝、－２℃の凜とした空気の中、校長室の扉を開けると日の出の太陽が窓越しに燦々と降り注いでいました。寒さの中にも温かいぬくもりを感じ、今年一年の子供たちの活躍と安全を祈りました。



今年の干支は、癸卯（みずのと・う）です。卯年は芽を出した植物が生長していき、茎や葉が大きくなる時期で、目に見えて大きく成長する年と言われています。また、干支は時間、方位などにも使われ、「卯」は東の方角、「卯の刻」は、午前６時を中心とする前後２時間にあたります。まさに、一日が始まる（動き出す）時間です。

「うさぎ」には古来から様々な話があります。日本神話の「因幡の白うさぎ」では、ワニ（サメ）をだました仕返しに毛皮をはがされた上に、海水で身体を洗って痛がる「うさぎ」に大国主命が通りかかり、真水で洗ってガマの花の上に寝転がるように教え、傷が癒やされたという話が収録されています。童話「うさぎと亀」では、「うさぎ」が油断して昼寝をしてしまったために亀がコツコツと歩みを進め、「うさぎ」を追い抜き、「うさぎ」が競争に負けたという話もあります。このように「うさぎ」は、神話や童話の世界にも親しみやすく登場し、日常生活の教訓を説いています。

また、日本では月の影（黒い部分）の模様が「うさぎ」に見えることから「月にうさぎがいる」「月でうさぎが餅をついている」などとも言われ、うさぎは「ツキ（月）をよぶ縁起のいい動物」という扱いも受けてきました。「うさぎ」にあやかり、「飛躍、向上」を願いたいものです。

さて、今年の「箱根駅伝」は、駒沢大学の総合優勝で幕を閉じました。今回は、年末の新聞で「第２区」のことが特集されていたので、ここに注目をして観戦しました。「花の２区」と呼ばれるこの区は、２３、１キロという距離があり、アップダウンも激しい難コースで、エース、一番強い選手が走る区間だそうです。特に、１３キロ過ぎの「権太坂」のアップダウンとラスト３キロの起伏を繰り返すコースは選手を苦しめる大きな壁で、この壁をどう攻略するかが鍵となります。

かつて第２区を走った経験者たちは、この過酷な壁を乗り越えるランナーに必要なものとして、「スピード、体力、持久力、精神力」などをあげていました。つまり、２３キロ走る体力では、ゴールはできない。３０キロ走れるような体力、走力、身体の強さに加え、きつい坂を走りきる精神力も必要ということです。実際に、今大会の２区は、駒沢大学と中央大学、青山学院大学の３校でエースと呼ばれる選手たちの熾烈なトップ争いが見られました。２区のゴールでは、僅差のたすきリレーという波乱の展開となり、とても見応えがありました。壁を乗り越え走りきった３選手には、さすがエースの貫禄を感じました。優勝校の大八木監督の口からは「レースに臨むまでに自信をもつこと」、「自信を付けた自慢の子供たち」など「自信」という言葉が何度も出てきました。

いよいよ３年生は受験期を迎えます。「体力、持久力、精神力」で壁を乗り越え、「やるだけのことはやった」と「自信」をもって試験に臨んでもらいたいと思います。１、２年生の皆さんも今年の目標をもち、大きな壁にぶつかってもあきらめずにゴールを目指してもらいたいと思います。

ところで、昨年末の１２月１１日に、３年ぶりに市の駅伝大会（「むさむらＥＫＩＤＥＮ２０２２」）が開催されました。本校も陸上競技部と教員チーム（「チーム五中」）が出場しました。入賞はできませんでしたが、どちらもたすきをしっかりとつなぎ完走できました。今年も教職員一同「チーム五中」として団結し、全力を尽くしてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

明るいあいさつ・みんなの笑顔　第五中学校区（二小・八小・十小・五中）

第五中学校体罰防止標語：　チーム五中で　心に響く　生徒指導